

切手活動日誌

# Stamp Diary



2010年12月号(創刊)

はじめに

長年放置していた切手収集を真面目に再開した。ディープな内容を期待されると申し訳ないが、小さいながらもピリリとした話題をお届けすることを目標としたい。画像は自前のコレクションからである。

12月14日

初めて切手に関心を持ったのは30年近く前のお正月だった。年賀状に貼ってあった年賀切手がいつもの普通切手と異なることに気づく。(まだ若かった)ママが数枚の未使用切手を持ち出してきて、私にくれた。唯一覚えて&未だ手元にあるのがこの1枚。



1963年発売の季節の行事シリーズ「節分」である。47年前ですか。個人的理由で恐縮だが、最初に紹介するのであれば、これから始めたかった。切手にハマった人であれば誰でも、こういう最初の1枚があるに違いない。

12月16日

アメリカ切手に手を入れた。発行された時期も価値もわからずダブリも多く、とにかく箱に入っていたりストック・ブックに意味もなく並べてあるのが、心理的負担になっていた。悩んだあげく、10年ほど前のアメリカ滞在時に無料で手に入れた Mystic's U.S. Stamp Catalog 1997 Edition が役に立ち（これまで開いたこともなかった）、ひたすら年代順に並べてみた。

この年代順に並べたものが、意外と満足な仕上がりとなったのである。古くは1930年代があった。このアメリカ・コレクションから地味ながら気に入ったのがこの1枚。



1962年発行"Friendship 7 Capsule"とある。このショボさ加減が微笑ましい。US版wikipediaには、この切手の説明も詳細に書いてある。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Friendship\\_7](http://en.wikipedia.org/wiki/Friendship_7)

[http://en.wikipedia.org/wiki/U.S.\\_Space\\_Exploration\\_History\\_on\\_U.S.\\_Stamps](http://en.wikipedia.org/wiki/U.S._Space_Exploration_History_on_U.S._Stamps)

宇宙ネタは面白そうな匂いがしてくる。

12月18日

時代を逆走して切手ブームの自分は、わずかなタイミングを見計らって切手ショップに足を運んだ。ここは大手町にある逓信総合博物館ていぱーく内にあり、かつては職場の近くだったので、昼休みに足繁く通っては散財していた。



この日も手ぶらでは帰りたくない、目に留まったのがこれである。オーストラリア使用済切手100gで250円に入っていた。オーストラリアの切手はほとんどなく、この大自然を彷彿させる切手とオーストラリアのイメージが重なって即購入した。家に帰って中身を開けてみると、出てくる出てくる、100gで360枚のうち94枚がこの蛙だった。かの地の普通切手なのだろう。沢山あるので欲しい人にもお譲りしたい。

気に入ってはいるが、切手の目利きと言うには程遠いセンスである。

12月20日

アメリカ切手の次として、イギリス切手に手を入れた。10年ほど前になるか、きっかけは忘れて知らないイギリス人と郵便で切手交換をしたので、ダブリ無しで100枚ほどある。図書館でイギリス切手のカタログを借りてきて、首っ引きでアメリカ切手同様に時代順にならべた。

切手に記載ある年号（主に1980年以降）や額面金額を手がかりに全ての年代を特定できたが、アメリカ切手ほどの満足感はなかった。しかし、今日の紹介は別ルートで手に入れた品々である。ちょうど昨年この時期、知人のクリスマス・プレゼントとして昆虫切手をYahoo! オークションで落札したところ、出品者が送付先を取り違え異なる商品が到着した。私は気にしなかったが、先方が恐縮し、正しい商品を送付と同時にこれらをくれた。



改めて眺めると、イギリスの切手は真摯に取り組んでいる感じがする。

12月22日

クリスマス&祝日前のウキウキする日、親しい人とお食事するので新橋SL広場で待合わせをした。早めに到着し、ニュー新橋ビル1階に屯っている金券ショップを覗いてきた。唯一、むかしの未使用記念切手を額面より安くシート売りしている店舗を見つけて購入した。50円×10枚の額面にたいして（多分）94%の金額だった。



無理にシートで掲載したから不鮮明になってしまった。1968年発売の国際人権年である。むかしの切手はデザインや色使いが興味深くてドキドキさせてくれる。エルメスを彷彿させるオレンジが好き。けど、2枚残して残りは使うつもり。

12月23日

そろそろ到着しないかな、と期待していた郵便がルーマニアから届いた。

Stamp Exchangeサイトで日本の切手と交換してくれる人を探して2人メールを出したところ、スペインの人は返信なしであるがルーマニアの人（コジョカル氏と呼ぶ）はチャット並みの早さで返信をくれ、使用済の日本切手100枚とルーマニア切手100枚で取引が成立した。やり取りで、自分の住所を伝えた後、2回もコジョカル氏の住所を問うたのに回答がなく、半信半疑で郵便を待っていたら本当にしかもロスタイム無しの早さで到着した。



素敵なお面の切手を貼ってくれた封書である。もちろん、ようやくコジョカル氏の住所がわかったので、私も直ちに送った。100枚の取引なのに160枚あった。今月の表紙はそのうちの一部分である。

12月25日

クリスマス、まだまだ私の切手の手入れは続く。次なるターゲットはエジプト切手である。ママのエジプト土産でごっそりもらったのだが、本物の切手か土産用切手なのか判別がつかず放置していたが、雑誌「スタンプマガジン」のバックナンバー2010年7月号を流していたら、エジプト特集があり本物であったことが判明した。

基本的にピラミッド関係の遺跡とネフェルティティとファールーク王ばかりであったが、これはそれらと全く関係ないお花である。



日本の普通切手より一回りほど貧弱と思わせる切手であるが、遺跡とファールーク王ばかりのなかで可憐に存在を主張していた。1991年発行で未使用のようなのでカタログ価格100円。



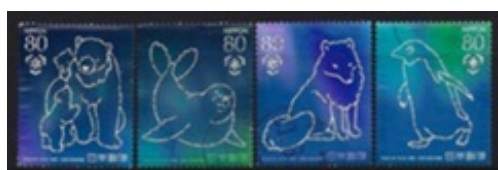
12月27日

コジョカル氏との取引が楽しかった私は、またStamp Exchangeサイトで今度はフランス人のジョゼ（呼び捨て）に接触を試みたところ、これもチャット並みの早さで回答がきた。ところが、今度はなんと注文があり2002年～2010年発行に限り2006年は除いた使用済100枚とのこと。

品薄な期間にも関わらず、変な意地に取り付かれ快く承諾してしまった。しかも、ジョゼは「オレの住所はこれだ、お前のものを受け取ったら連絡する。ハッピー・クリスマス」と言い残し、私の住所など問うこともしなかった... 困った。手持ちでは50枚しかなく結局Yahoo!オークションで調達してしまった。

平成21年・22年発行記念特殊切手約200枚：1,520円

平成20年発行ふるさと100種：460円



久しぶりにじっくり眺めた日本切手、しかも最近2年間発行で思ったのは、やはり「ドキドキさせられなくなった」ことである。そのなかでもこれは、ジョゼなんぞには渡したくないと思った2009年6月発行の「南極・北極の極地保護（シール式）」であった。

シール式はそうでないのと質感も異なる。これは嫌いでないが、何だか絵柄のテーマもデザインもリアルさばかり追求されどうも今ひとつ心躍らず。

12月31日

ジョゼとの取引にも懲りず、今度はオランダ人のベルタス君に接触したところ、なんと彼は「2008～2010年発行を優先で100枚」とジョゼより厳しい注文をつけてきた。ある程度、最近の日本切手にも手持ちに余裕ができた私だったので、断りもせず承諾してしまった。

直近の日本切手には愛着ないが、立て続けに入手後すぐに手放すことにも未練があり、ついまたYahoo!オークションで調達してしまった。

平成19～22年発行 記念特殊切手&ふるさと切手使用済500枚+@ : 2,290円

1960～1970年代の日本切手の良さを知らない外国人には、ふるさと切手で十分だろうと思い反面、さすがにふるさと切手ばかりの構成も今ひとつだったので、ふるさと30枚・漫画20枚・テーマ30枚・記念20枚適当にまとめて送った。

愛着薄いふるさと切手であるが、愛らしくドキドキしたのが1枚あった。



2007年4月発行「山梨県 南アルプスともも」左上の桃が結構ラブリーな出来映えだと思っている。

最後に

これにて2010年の活動は終了した。いつまで続くか自信はないが... など、言うてはいけない。とにかく、来月もいろいろ考えてみる。